



04

# 福音

BASE Is Biblical And Solid Essentials  
**GOSPEL**

*Introduction*

# 序論



“

私たちは世界が  
読んでいる聖書です。  
私たちは世界が  
必要としている  
信仰告白です。  
私たちは世界が  
注意を払っている  
メッセージです。

-Billy Graham

主の心を  
教えられた  
福音を伝える者と  
されたい

# AG EN DA

- 01
- 02
- 03
- 04

**福音を伝える幸い  
福音についての考察  
個人伝道のポイント  
世界視点で見る福音伝道**

*Chapter 1*

# 福音を伝える 幸い

*Section 1-1*

# 福音を伝える特権

ウジヤ王が死んだ年に、  
私は、高く上げられた御座に  
着いておられる主を見た。  
その裾は神殿に満ち、  
セラフィムがその上の方に立っていた。  
彼らにはそれぞれ六つの翼があり、  
二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、  
二つで飛んでいて、  
互いにこう呼び交わしていた。

---

イザヤ 6:1-5

---

「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。  
その栄光は全地に満ちる。」  
その叫ぶ者の声のために  
敷居の基は揺らぎ、  
宮は煙で満たされた。  
私は言った。

「ああ、私は滅んでしまう。  
この私は唇の汚れた者で、  
唇の汚れた民の間に住んでいる。  
しかも、万軍の主である王を  
この目で見たのだから。」

# 唇の汚れた者

# ツアラアトの人

すると、私のもとに  
セラフィムのひとりが飛んで来た。  
その手には、  
祭壇の上から火ばさみで取った、  
燃えさかる炭があった。  
彼は、私の口に  
それを触れさせて言った。  
「見よ。これがあなたの唇に  
触れたので、  
あなたの咎は取り除かれ、  
あなたの罪も赦された。」

イザヤ 6:6-7

すると見よ。

ツアラアトに冒された人がみもとに来て、  
イエスに向かってひれ伏し、

「主よ、お心一つで  
私をきよくすることが  
おできになります。」

と言った。

イエスは手を伸ばして彼にさわり、  
「わたしの心だ。きよくなれ」  
と言われた。

すると、すぐに彼の  
ツアラアトはきよめられた。

神は人を  
きよめたい

神は人と共に  
生きたい

# 罪のきよめを 拡大する人生

*Section 1-2*

# 第1章のまとめ

福音を  
伝える人生は  
罪のきよめを  
拡大する  
特権ある人生

*Chapter 2*

# **福音についての 考察**

*Section 2-1*

# **福音がテーマの 聖書書簡**

# ローマ人への 手紙

# ROMANS OVERVIEW

教理

1-4章

福音は神の義を  
明らかにする

1

5-8章

福音は新しい人間性を  
生み出す

2

9-11章

福音はイスラエルに  
対する神の約束を果たす

3

12-16章

福音は兄弟姉妹を  
一致させる

4

実践

×

*Section 2-2*

# ロマ書の概観

# ROMANS OVERVIEW



*Section 2-3*

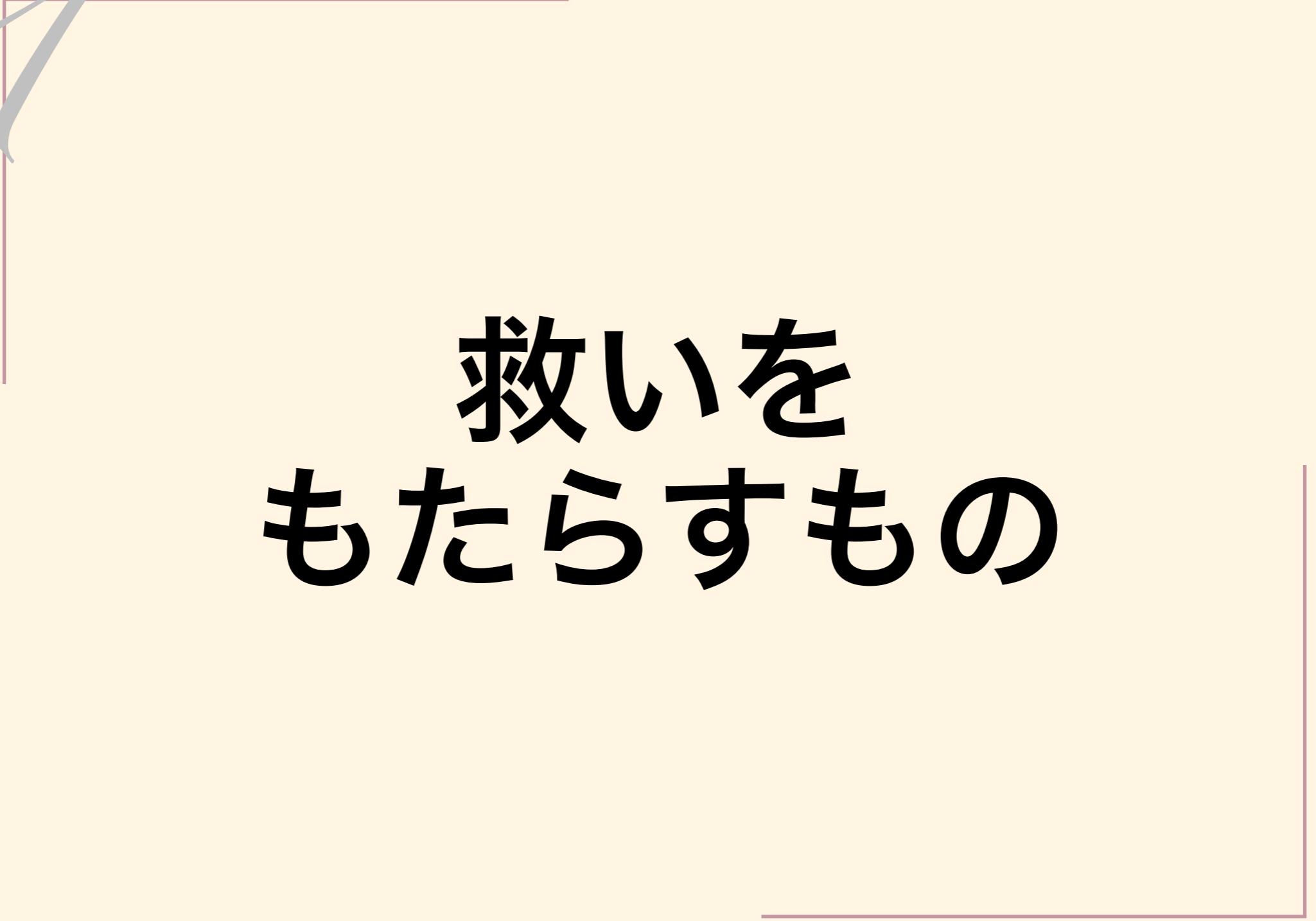
# ロマ書の10の質問

*question 1*

**福音とは何か**

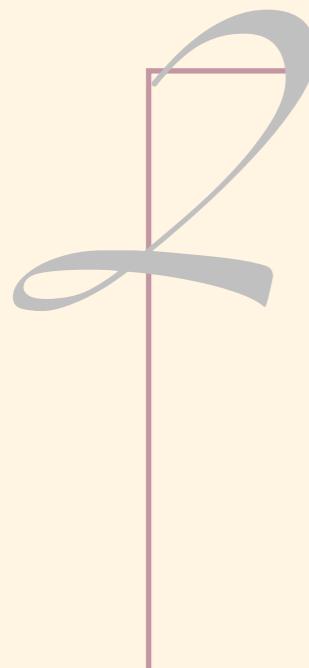


**救いを  
もたらすもの**



**福音は、  
ユダヤ人をはじめギリシア人にも、  
信じるすべての人に救いをもたらす  
神の力です。**

**ローマ 1:16**



**神の義を  
明らかにするもの**

福音には神の義が啓示されていて、  
信仰に始まり  
信仰に進ませるからです。

ローマ 1:17

*question 1*

**福音とは何か**

*answer 1*

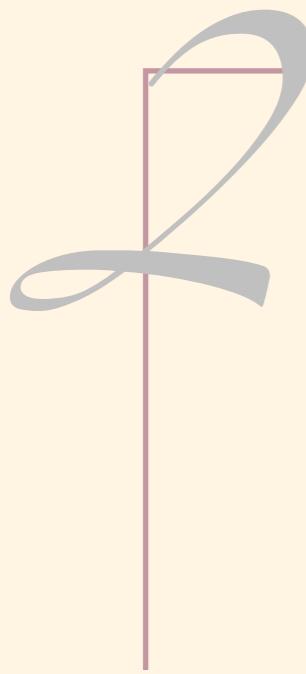
**人を救う神の力  
であり  
神の義を  
明らかにするもの**

*question 2*

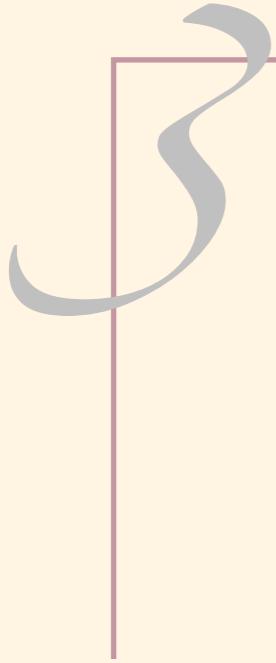
**福音はなぜ  
人に必要か**



**異邦人は罪人**



ユダヤ人も罪人



すべての人は罪人

*question 2*

**福音はなぜ  
人に必要か**

*answer 2*

**神に義認される人は  
いないため  
義認の方法を示す  
福音が必要**

*question 3*

**福音に示された  
義認の方法とは  
何か**

すなわち、  
イエス・キリストを  
信じることによって、  
信じるすべての人に  
与えられる神の義です。

ローマ 3:22

神の恵みにより、  
キリスト・イエスによる  
贖いを通して、  
価なしに義と  
認められるからです。

ローマ 3:24

*question 3*

**福音に示された  
義認の方法とは  
何か**

*answer 3*

# キリストによる 罪の解決を 信じる方法

## *question 4*

**福音に示された  
義認は旧約聖書と  
調和しているか**

「アブラハムは  
神を信じた。  
それで、  
それが彼の義と  
認められた」

ローマ 4:3

## *question 4*

**福音に示された  
義認は旧約聖書と  
調和しているか**

*answer 4*

旧約に信仰義認の  
例があるので  
信仰義認は  
旧約聖書と  
調和している

*question 5*

**福音に示された  
義認がもたらす  
祝福は何か**

# 新しい人間性 への移行

アダムにある  
古い  
人間性

or

キリストに  
ある  
新しい  
人間性

# *question 5*

**福音に示された  
義認がもたらす  
祝福は何か**

*answer 5*

**死の支配下の  
人間性から  
いのちの支配下の  
人間性へ  
移行させる祝福**

*question 6*

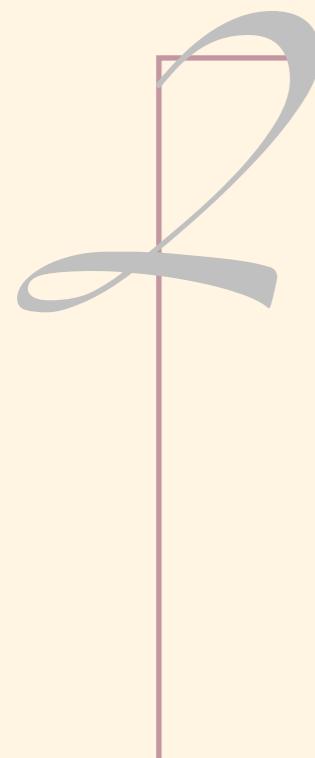
**福音は  
罪を犯すことを  
助長するので  
ないか**

放縱

恵みを  
味わうために  
罪の中に  
とどまる  
べきでは？

それでは、どのように  
言うべきでしょうか。  
恵みが増し加わるために、  
私たちは  
罪にとどまるべきでしょうか。

同じように、  
あなたがたも  
キリスト・イエスにあって、  
自分は罪に対して死んだ者であり、  
神に対して生きている者だと、  
認めなさい。



**律法違反の  
刑罰はないの  
だから  
罪を犯しても  
いいのでは？**

では、どうなのでしょう。  
私たちは律法の下にではなく、  
恵みの下にあるのだから、  
罪を犯そう、  
となるのでしょうか。

神に感謝します。  
あなたがたは、  
かつては罪の奴隸でしたが、  
伝えられた教えの規範に  
心から服従し、  
罪から解放されて、  
義の奴隸となりました。

バプテスマ

キリスト・イエスにつく  
バプテスマを受けた私たちはみな、  
その死にあずかるバプテスマを  
受けたではありませんか。  
私たちは、  
キリストの死にあずかる  
バプテスマによって、  
キリストとともに葬られたのです。  
それは、ちょうどキリストが  
御父の栄光によって  
死者の中からよみがえられたように、  
私たちも、  
新しいいのちに歩むためです。

水の中に沈む ↓

アダムにある  
古い  
人間性は  
死に

水の中から上がる ↑

キリストに  
ある  
新しい  
人間性に  
復活した

*question 6*

**福音は  
罪を犯すことを  
助長するので  
ないか**

*answer 6*

**新しく与えられた  
性質は  
罪を犯すことを  
助長しない**

*question 7*

**福音に示された  
恵みだけでなく  
律法の行いも  
清い生活には  
必要なのでないか**

# 律法主義

ですから、  
律法は聖なるものです。  
また戒めも聖なるものであり、  
正しく、また良いものです。

自分がしたいと  
願うこととはせずに、  
むしろ自分が  
憎んでいることを  
行っているからです。

ローマ 7:15

*question 7*

**福音に示された  
恵みだけでなく  
律法の行いも  
清い生活には  
必要なのでないか**

*answer 7*

**自分の力で  
清い生活は  
実現できない**

放縱

or

律法主義

*question 8*

福音は  
どのようにして  
清い生活を  
もたらすのか

子とする御靈  
による  
希望によって

あなたがたは、  
人を再び恐怖に陥れる、  
奴隸の靈を受けたのではなく、  
子とする御靈を受けたのです。  
この御靈によって、  
私たちは  
「アバ、父」  
と呼びます。

子どもであるなら、  
相続人でもあります。  
私たちはキリストと、  
栄光とともに受けるために  
苦難をともにしているのですから、  
神の相続人であり、  
キリストとともに共同相続人なのです。

それだけでなく、  
御靈の初穂をいただいている  
私たち自身も、  
子にしていただくこと、  
すなわち、  
私たちのからだが  
贖われることを

# 神の子とされた希望

1 神との親しい  
親子関係に  
入れられた希望

2 罪と死がない  
完全ながらだが  
与えられる希望

*question 8*

福音は  
どのようにして  
清い生活を  
もたらすのか

---

*answer 8*

**神の子とする  
聖靈によって**

*question 9*

**福音に示された  
約束は  
反故にされたり  
しないか**

それでは、尋ねますが、  
神はご自分の民を  
退けられたのでしょうか。  
決して  
そんなことはありません。

もし彼らの  
捨てられることが

ローマ 11:15

イスラエル人の一部が  
頑なになったのは  
異邦人の満ちる時が  
来るまでであり、

ローマ 11:25

神の賜物と召命は、  
取り消されることが  
ないからです。

ローマ 11:29

*question 9*

**福音に示された  
約束は  
反故にされたり  
しないか**

*answer 9*

**神は約束を  
反故にしない**

# *question 10*

**福音を信じる者は  
どのように  
生きるべきか**

ですから、兄弟たち、  
私は神のあわれみによって、  
あなたがたに勧めます。  
あなたがたのからだを、  
神に喜ばれる、  
聖なる生きたささげ物として  
獻げなさい。  
それこそ、  
あなたがにふさわしい礼拝です。  
この世と調子を合わせてはいけません。  
むしろ、  
心を新たにすることで、  
自分を変えていただきなさい。

---

ローマ 12:1-2

---

# 生きたささげ物

# 否定的命令形

この世と調子を  
合わせてはいけません

# 受動態命令形

心を新たにして自分を  
変えていただきなさい

変わる

マタ17:2

マコ9:2

ロマ12:1

IIコリ3:18

それから六日目に、  
イエスはペテロとヤコブと  
その兄弟ヨハネだけを連れて、  
高い山に登られた。  
すると、弟子たちの目の前で  
その御姿が変わった。  
顔は太陽のように輝き、  
衣は光のように白くなつた。

マタイ 17:1-2

# 変わる

本来の性質を  
はっきり表現する

型に  
押し込む

or

本来の性質を  
解き放つ

# キリストに似る

# 画一的になること？

# 変わる

本来の性質を  
はっきり表現する

心をささげるとは

1

この世の考えに  
染まる方向に  
心を向けない

2

与えられた本来の  
性質を表す方向に  
心を向ける

# *question 10*

**福音を信じる者は  
どのように  
生きるべきか**

*answer 10*

この世の考えに  
自分の心を  
押し込めず  
与えられた本当の  
自分の性質を  
解放すべき

- 01 福音は義を明らかにする
- 02 古い性質は義に到達できない
- 03 義をもたらすのは信仰
- 04 旧約の人物もそうだった
- 05 義とされた新しい性質に移行できる
- 06 古い性質は新しい性質と共栄しない
- 07 古い性質は新しい性質を助けられない
- 08 新しい性質を助けるのは御靈
- 09 新しい性質が備わる約束は破られない
- 10 新しい性質を表す人生に生きる

*Section 2-5*

# 第2章のまとめ

福音は  
躍動する  
いのちの世界に  
人を導き入れる

*Chapter 3*

# 個人伝道 のポイント

*Section 3-1*

# ピリポの例から



# 祈って行動

さて、  
主の使いがピリポに言った。  
「立って南へ行き、  
エルサレムからガザに下る道に  
出なさい。」

私がまだ語り、祈り、  
自分の罪と自分の民  
イスラエルの罪を告白し、  
私の神の聖なる山のために、  
私の神、主の前に伏して  
願いをささげていたとき、  
すなわち、私がまだ祈りの中で  
語っていたとき、  
私が初めに幻の中で見たあの人  
ガブリエルが、  
すばやく飛んで来て私に近づいた。

ダニエル 9:20-23

それは夕方のささげ物を  
獻げるころであった。  
彼は私に悟らせようとして  
こう告げた。

「ダニエルよ。

私は今、悟りによって  
あなたを賢明にさせようとして  
出て來た。

あなたが願いの祈りを始めたとき、  
一つのみことばが出されたので、  
私はそれを伝えに來た。

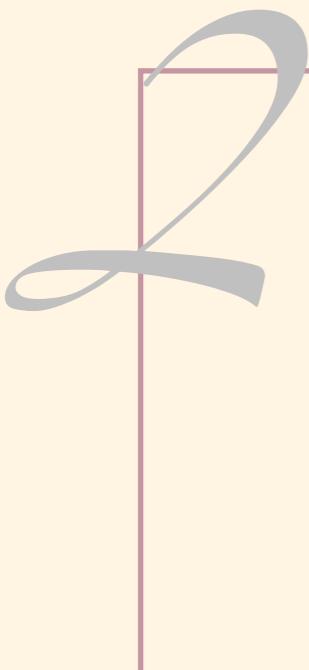
ダニエル 9:20-23

ピリポはサマリアの町に下って行き、  
人々にキリストを宣べ伝えた。  
群衆はピリポの話を聞き、  
彼が行っていたしるしを見て、  
彼が語ることに、  
そろって関心を抱くようになった。

使徒 8:5-6

「立って南へ行き、  
エルサレムから  
ガザに下る道に出なさい。」  
そこは荒野である。

使徒 8:26



# 關係構築

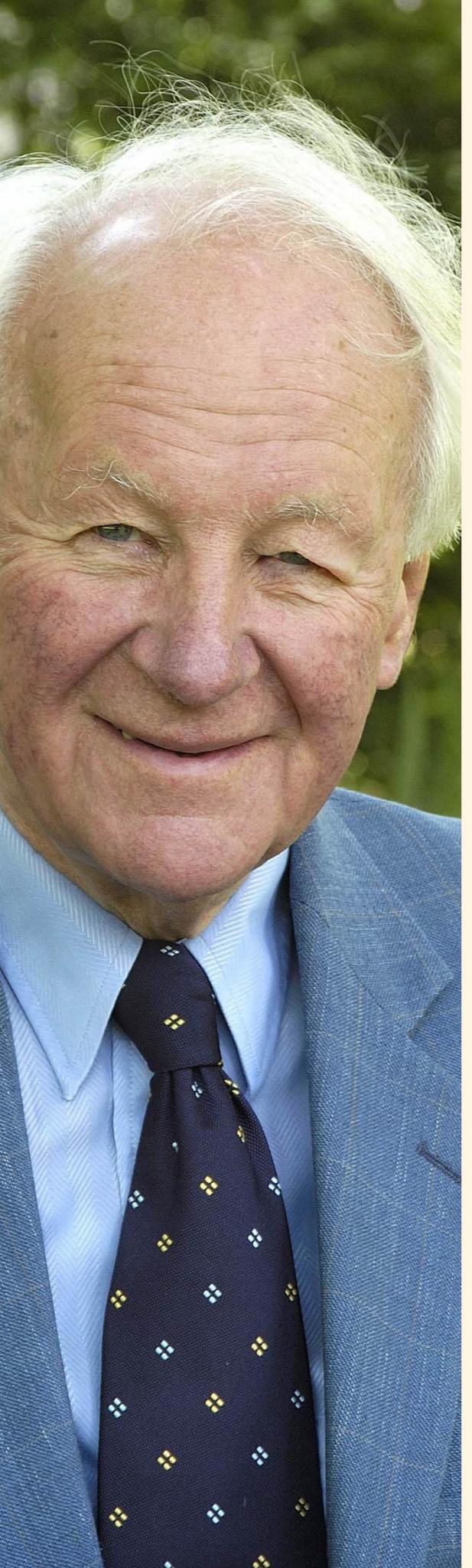
御靈がピリポに  
「近寄って、  
あの馬車と一緒に行きなさい」  
と言われた。  
そこでピリポが走って行くと、  
預言者イザヤの書を  
読んでいるのが聞こえたので、  
「あなたは、  
読んでいることが分かりますか」  
と言った。

するとその人は、  
「導いてくれる人がいなければ、  
どうして分かるでしょうか」  
と答えた。  
そして、  
馬車に乗って一緒に座るよう、  
ピリポに頼んだ。

**近寄って**

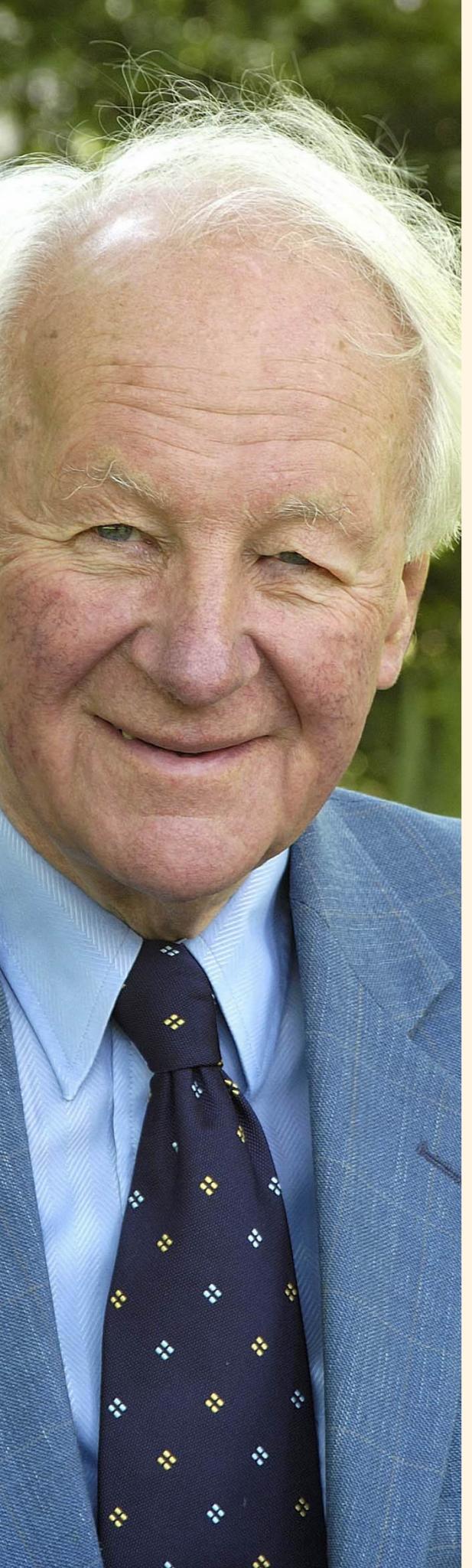
そこでピリポが走って行くと、  
預言者イザヤの書を  
読んでいるのが聞こえたので、  
「あなたは、  
読んでいることが  
分かりますか」  
と言った。

使徒 8:30



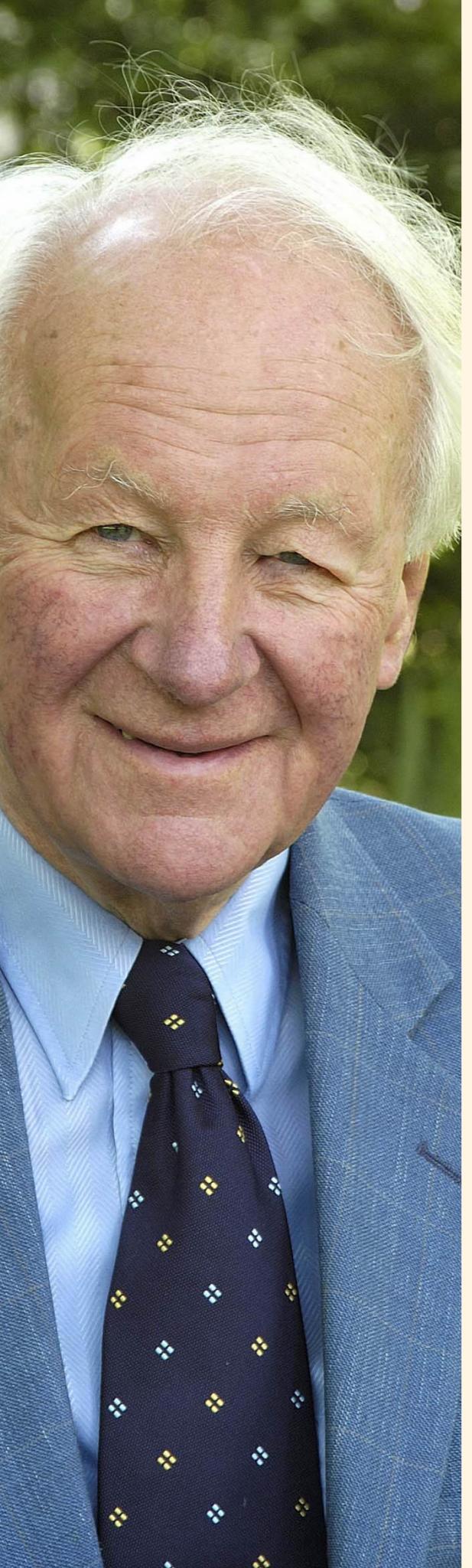
“

鍵をもっておられるのは  
キリストである。  
ドアを開けてくださるのは  
キリストである。  
あるとするなら、  
まだドアが閉じられているのに、  
ノックもせずに、  
無作法にも入り込むようなまねは  
やめようではないか。  
主が突破口を開いてくださるまで、  
我々は待っていなければならぬ。



“

無作法な、または、  
厚かましい『証し』なる  
ものによって、  
キリストの御名にいつも  
汚名が着せられている。  
家庭においても、職場においても、  
友人や親族が  
キリストのものとなるように  
求めるのは、  
確かに間違ってはいない。



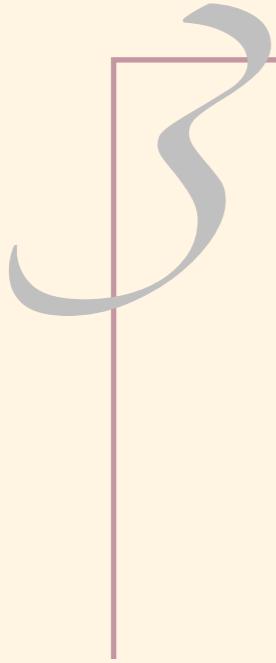
“

しかし、ときとして、  
私たちは、  
神よりもはるかに  
急いでいることがある。  
忍耐せよ。  
熱心に祈り、  
たくさんの愛を注げ。  
そして、  
証しの機会が訪れるのを  
期待して待て。

-John Robert Walmsley Stott

“  
伝道の対象としてではなく、  
人をあるがままに、  
一人の人間として愛しましょう。  
伝道の90%は、  
未信者をどう愛するかに  
かかっている  
と言われています。

-Jim Peterson



# 状況確認

宦官はピリポに  
向かって言った。  
「お尋ねしますが、  
（中略）」  
ピリポは口を開き、

使徒 8:34-35



“  
私たちの中で、  
「救靈に熱心な人」  
に出会わなかつた人はいません。  
忙しく歩き回り、  
疑うこと知らない、  
見込みのありそうな人を見つけると、  
途切れず話しかけます。  
そこで、どうしたら救われるか  
という一定の公式にしたがつて導き、  
ついに相手が根負けして、  
この人から逃れるためには、  
これしか方法はないと觀念して、  
信仰告白をするまで  
しつこくつきまとう人のことです。



“

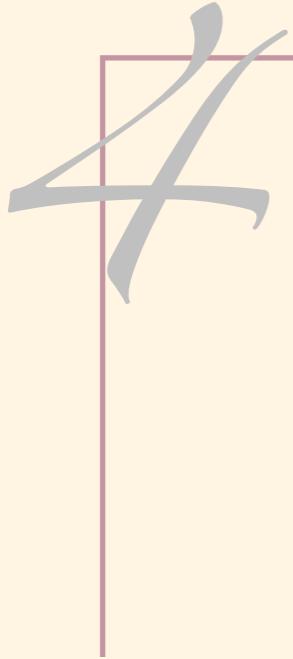
回心者を新たに獲得すると、  
それを記録し、  
さらに、数字を稼ごうと  
見込みのありそうな人を  
探し回ります。  
果たして、  
これは福音伝道と  
いえるのでしょうか。  
これが福音伝道で  
あるはずはない、  
と私たちは認めざるを得ません。



“

むしろ、  
一種の宗教的嫌がらせ  
(ハラスメント)です。  
肉の力でなされる奉仕は  
どれもみなそうであるように、  
これもまた益少なく  
害の多いものです。

-William Macdonald



# 福音の全体確認

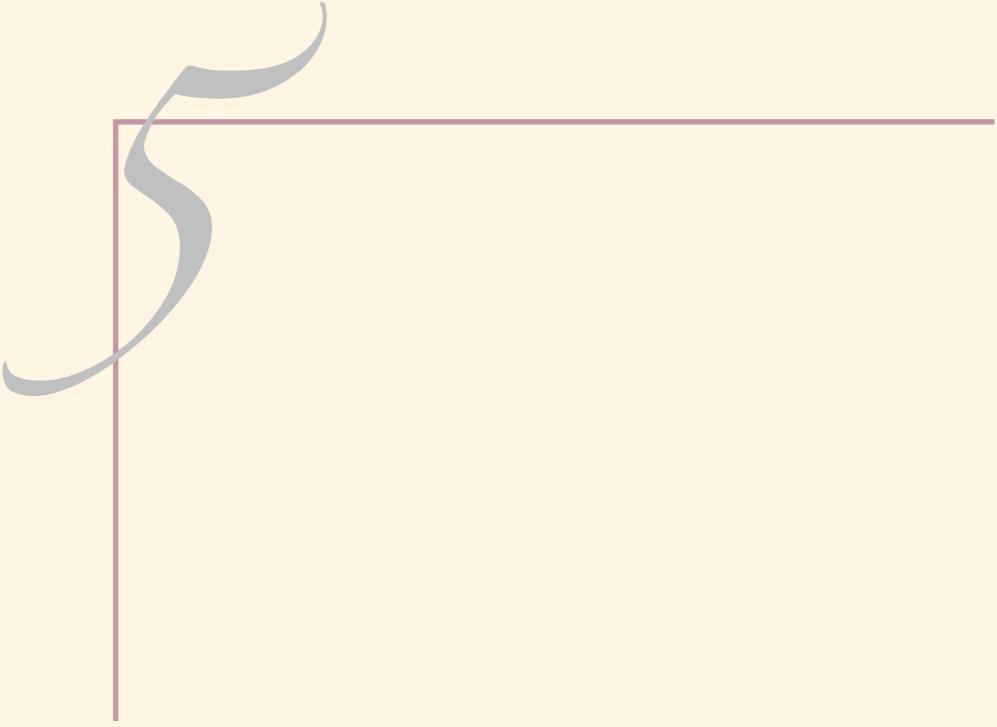
ピリポは口を開き、  
この聖書の箇所から始めて、  
イエスの福音を彼に伝えた。

使徒 8:35

あなたがたのうちにある  
希望について  
説明を求める人には、  
だれにでも、  
いつでも弁明できる  
用意をしていなさい。

私は驚いています。  
あなたがたが、  
キリストの恵みによって  
自分たちを召してくださいましたから、  
このように急に離れて、  
ほかの福音に移って行くことに。  
ほかの福音といっても、  
もう一つ別に福音があるわけでは  
ありません。  
あなたがたを動搖させて、  
キリストの福音を変えてしまおうと  
する者たちがいるだけです。

私たちは、  
多くの人たちのように、  
神のことばに混ぜ物をして  
売ったりせず、  
誠実な者として、  
また神から遣わされた者として、  
神の御前で  
キリストにあって  
語るのである。



主に導く



二人が水から上がって来たとき、  
主の靈がピリポを連れ去られた。  
宦官はもはや  
ピリポを見るることはなかったが、  
喜びながら帰って行った。

“

わが上に  
主の麗しさのみ輝け。  
得るために、  
われは失うことを  
求めん。  
その器を  
忘れしめよ。  
見るべきは  
ただ主のみなり。

-Kate B. Wilkinson

*Section 3-2*

# 第3章のまとめ

**福音伝道は  
魂を思う  
祈りから始まる**

*Chapter 4*

# 世界視点で見る 福音伝道

*Section 4-1*

# 福音の段階的波及

そして、エルサレム、  
ユダヤとサマリアの全土、  
さらに地の果てまで、  
わたしの証人となります。

*Section 4-2*

# 大宣教命令第一段階

エルサレム中に  
自分たちの教えを  
広めてしまった。

使徒 5:28

エルサレムで弟子の数が  
非常に増えていった。  
また、祭司たちが大勢、  
次々と信仰に入った。

使徒 6:7

**使徒2:16-21**

その後、  
わたしはすべての人に  
わたしの靈を注ぐ。  
あなたがたの息子や娘は預言し、  
老人は夢を見、青年は幻を見る。  
(中略)

「見よ。わたしが  
ユダとエルサレムを  
回復させるその日、  
その時、

# 聖靈降臨

# メシヤ的王国樹立

*Section 4-3*

# **大宣教命令第二段階**

その日、  
エルサレムの教会に対する  
激しい迫害が起こり、  
使徒たち以外はみな、  
ユダヤとサマリアの  
諸地方に散らされた。

使徒 8:1

*Section 4-4*

# 大宣教命令第三段階

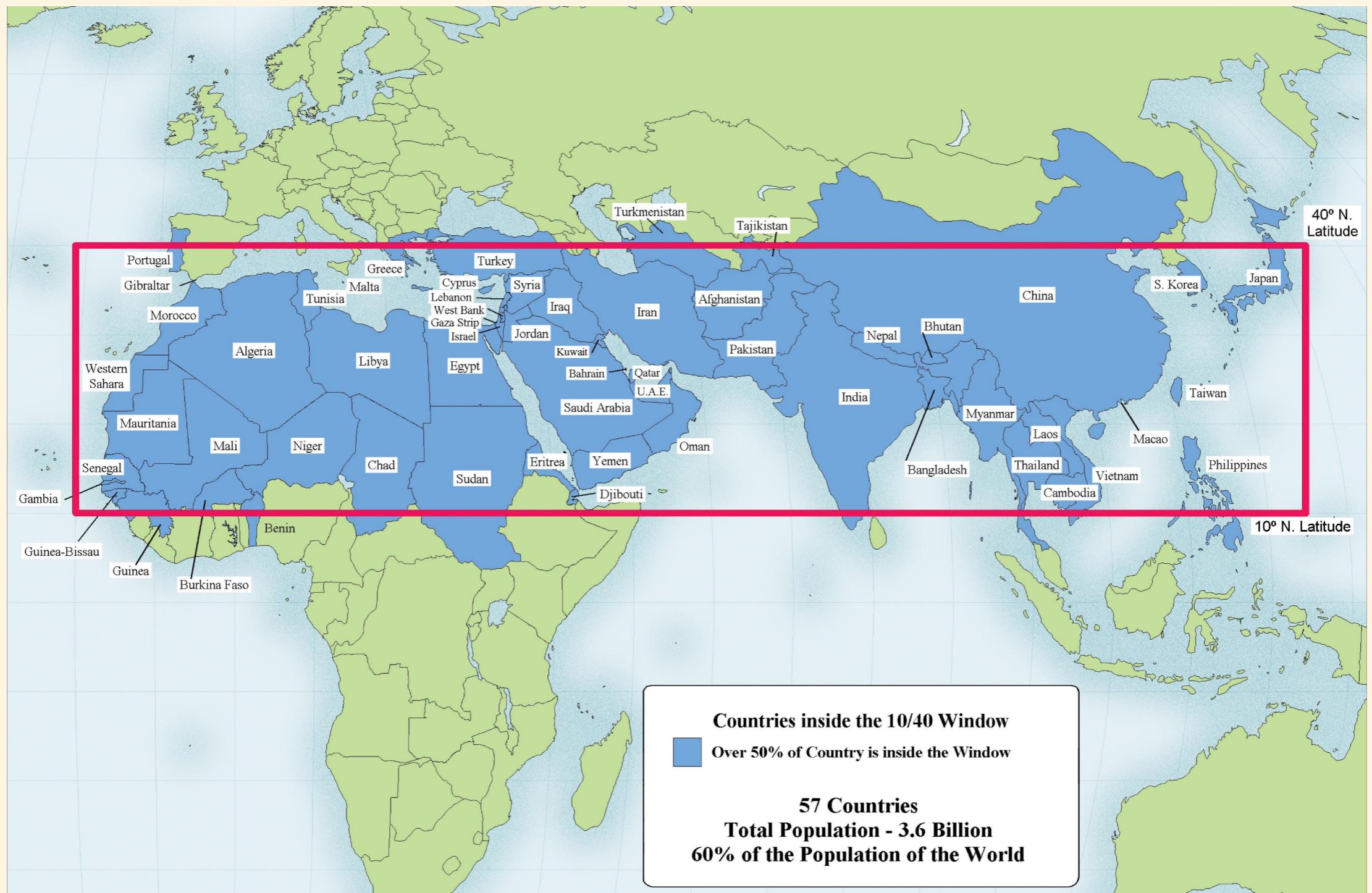
あの人は  
わたしの名を、  
異邦人、王たち、  
イスラエルの子らの前に運ぶ、  
わたしの選びの器です。

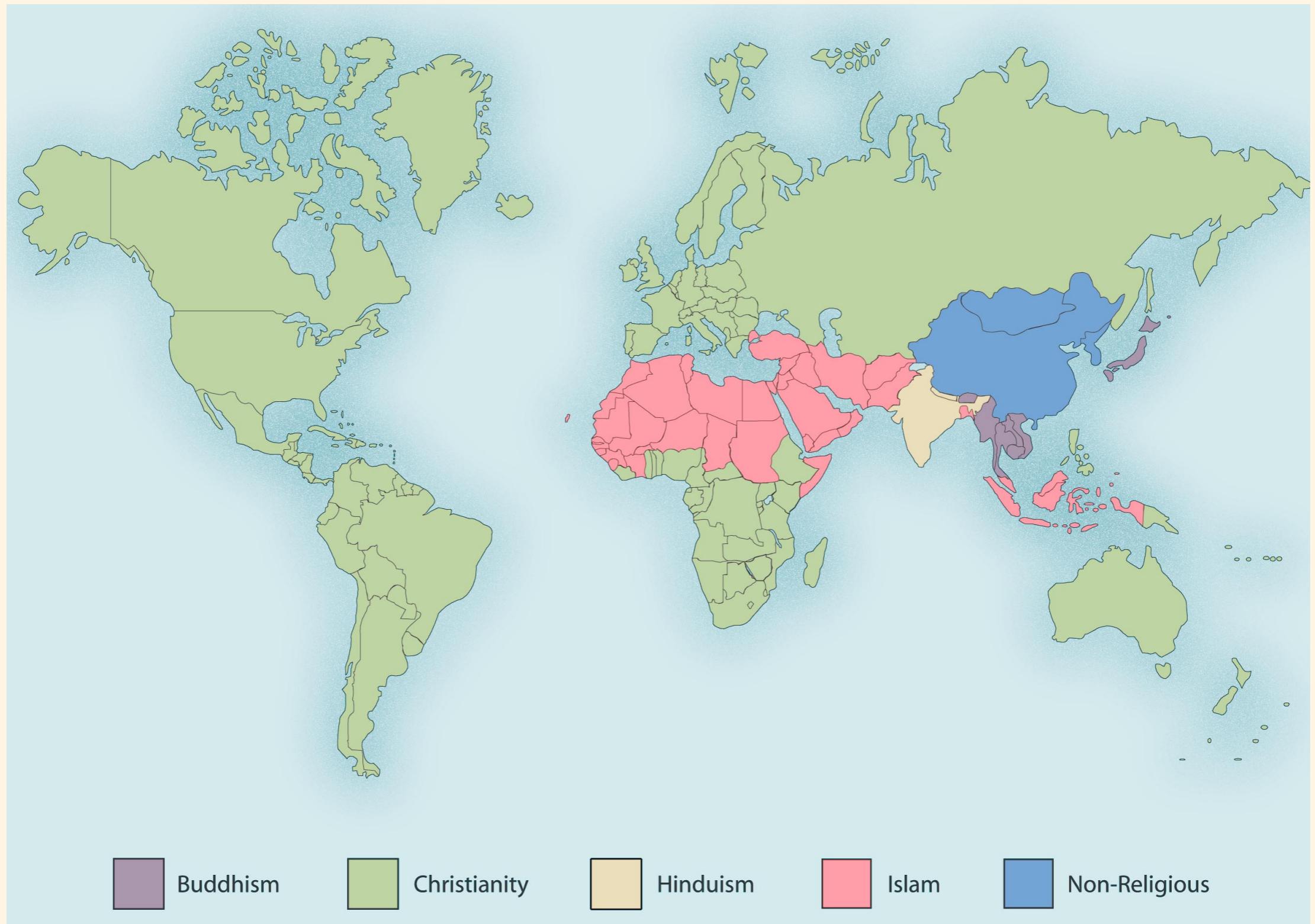
使徒 9:15



*Section 4-5*

# 10/40の窓







“

戦闘に従事する兵士一人に対し、前線の背後で任務を果たす人々は数人います。  
第二次世界大戦において、米国陸軍では、全部隊の内、戦闘に参加したのは、わずか30%でした。残りの人々は、工兵、補給、兵器、通信、化学、輸送の、支援部隊と軍政部でした。



“

主のみわざにおいても、  
この状況に  
類似したものがあります。  
クリスチャンはみな  
兵士ではありますが、  
そのすべてが戦闘の  
最前線にいるわけでは  
ありません。  
全員が説教者、伝道者、  
あるいは、教師、または、  
牧師とは限りません。  
全員が、  
世界各地の最前線で仕える  
宣教師でもありません。



“

神は、ご自分の軍隊にも  
支援部隊を置いておられるのです。  
戦いの潮目が変わるまで、  
毎日苦闘する忠実な  
祈りの戦士がいます。  
前線にできるだけ  
多くの資金を送ろう、  
と切り詰めて生活をする、  
献身的な管理者がいます。  
敵と真正面から戦っている人々に、  
食糧と宿泊場所を  
提供する人々もいます。



“

さらに、いつか遠い国々にまで  
メッセージを届けるであろう原稿を、  
タイプする人もいます。  
キリスト教の書物を編集し、  
翻訳し、印刷する人もいます。  
〈王〉の御用に役立つように  
息子や娘を育てながら、  
家庭で仕える  
優れた女性たちがいます。  
戦いの激戦地にいる一人に対して、  
数人は支援部隊として  
仕えているのです。



“

やがて、報酬が渡されるとき、  
支援的役割を持っていた人も、  
戦争の英雄として  
誉れを受ける人々と、  
平等に分け合うのです。  
前線の背後で静かに任務を  
果たした者も、  
福音伝道の著名人たちに並んで、  
等しい栄誉を受けるのです。  
神は、そのすべての選別が  
おできになります。  
一人ひとり、  
全員の貢献度の重要性を  
正確に測ることができるのである。



“

驚くことが  
山ほどあるでしょう。  
余り重要ではない、  
と私たちが考えていた  
目立たない人々が、  
実は命運のかかる部署に  
いたことがわかるでしょう。  
彼らがいなかつたならば、  
私たち自身も  
何もできなかつたことが  
わかるはずです。

-William Macdonald

*Section 4-6*

# 第4章のまとめ

すべての  
クリスチヤンが  
福音の  
前進のために  
召されている

*Whole Summary*

# 全体まとめ

*Summary Of Introduction*

# 序論のまとめ

福音を伝える人  
という福音書を  
未信者は  
読んでいる

*Chapter 1 Summary*

# 第1章 福音を伝える幸い のまとめ

**福音伝道は  
罪のきよめを  
拡大する  
特権ある人生**

*Chapter 2 Summary*

# 第2章 福音についての考察 のまとめ

福音は  
人を全く新しい  
いのちの世界に  
導き入れる

*Chapter 3 Summary*

# 第3章 個人伝道のポイント のまとめ

**福音伝道は  
祈りに  
基づいている**

*Chapter 4 Summary*

# 第4章 世界視点で見る 福音伝道 のまとめ

福音を  
伝えることは  
靈的な戦いを  
戦うこと

**EOF**

## • 参考資料

- 高木慶太『信じるだけで救われる』いのちのことば社、2004年  
R・A・ファーレル『集会の真理と行動』伝道出版社、1975年  
ウィリアム・マクドナルド『新約聖書注解1』伝道出版社、2004年  
ウィリアム・マクドナルド『新約聖書注解2』伝道出版社、2006年  
ウィリアム・マクドナルド『新約聖書注解3』伝道出版社、2008年  
ポール・ハッタウエイ『バック・トゥ・エルサレム』マルコーシュ・パブリケーション、2006年  
C・H・マッキントシ『キリストの大宣教命令』エマオ出版、2006年  
C・H・マッキントシ『真実な回心とは?』エマオ出版、2007年  
A. Scott Moreau、Gary R. Corwin、Gary B. McGee『Introducing World Missions』Baker Academic、2004年  
ウィリアム・バークレー『新約聖書のギリシア語』日本キリスト教団出版局、2009年  
ウィリアム・マクドナルド『この日を主とともに』ゴスペルフォリオプレスジャパン、2014年  
J・B・カリー『ローマ人への手紙』伝道出版社、1995年

## • 改版履歴

- 
- 2015年10月 初版  
2015年12月 改版  
2016年4月 改版  
2016年7月 改版  
2017年6月 改版  
2019年7月 改版  
2019年8月 改版  
2019年9月 改版  
2019年10月 改版  
2019年12月 改版  
2020年1月 改版  
2020年2月 改版  
2020年3月 改版  
2020年9月 改版  
2020年10月 改版
-